

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

佐賀県 唐津市

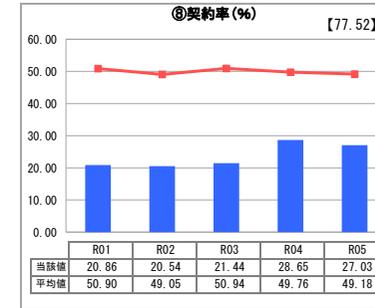
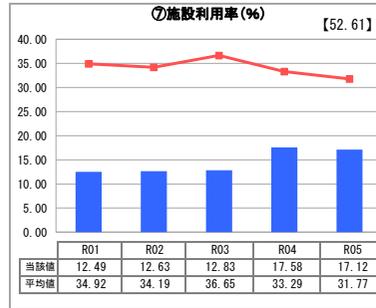
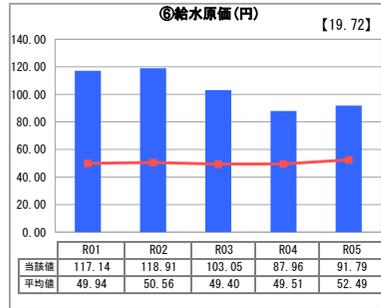
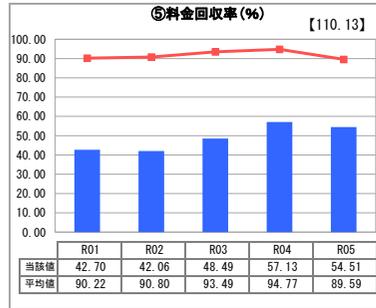
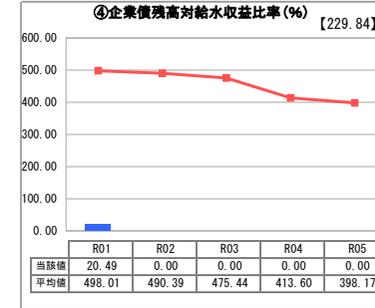
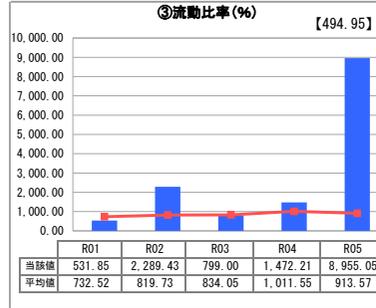
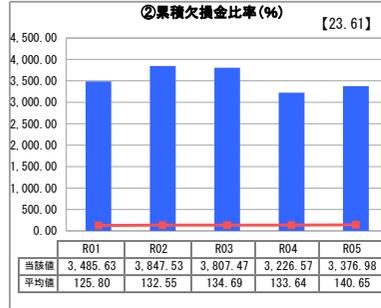
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	9,300	極小規模	1	1,592
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.9	7	2,514	非設置	

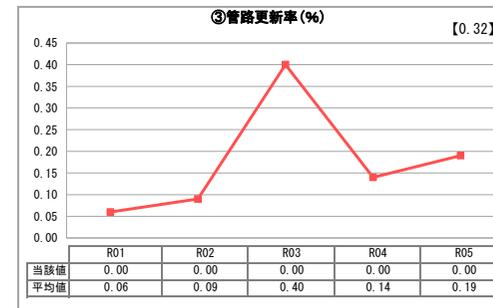
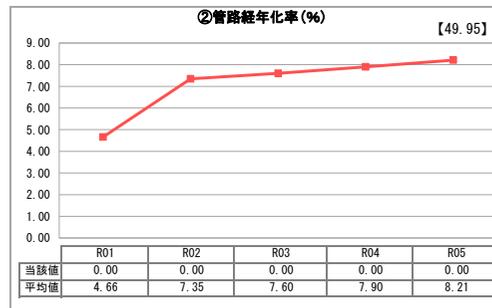
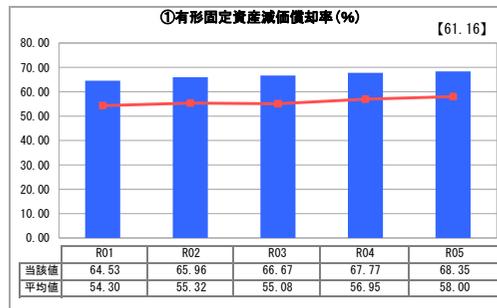
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び②累積欠損金比率について、契約水量の減少による給水収益の減少により、前年よりも悪化している。
 ③流動比率については、建設改良工事関係の未払金が多かったため、著しく高い数値となっている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、令和2年度に償還金が終了したため、令和3年度以降は「0」となる。
 ⑤料金回収率は100%をかなり下回っており、給水に係る費用を給水収益だけでは賄えてはいない。さらに①、②と同じ理由により、昨年度より低い数値となっている。
 ⑥給水原価は、工業用水施設の管理負担金の割合が高いため、平均値をかなり上回っている。
 ⑦施設利用率と⑧契約率については、給水区域が限定的であり、今以上に契約事業所の増加が見込めない状況にあり、平均値を大きく下回っている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、一定の割合で上昇しており、②管路経年率及び③管路更新率は、耐用年数を経過した管はなく、更新を行っていないが、布設より30年ほど経過しているため、今後は順次更新していく必要がある。

全体総括

平成5年に工業用水の給水を開始したが、給水区域は限られており、更に区域内は食品加工業者が多く、工業用水が適さず、契約率は低いままで、設備等の老朽化も進んでいる。
 設備等の更新を長期的に計画し行う予定だが、多大な負担となるため、内部留保の確保が必要となってくる。
 県内での現行料金は、本市が最高であり、料金改定は予定していない。
 今後も、経費の節減に努めつつ、企業誘致部局と連携をはかり、給水区域の新規需要の開拓を目指しながら、給水収益の増収を図る必要がある。